

国際化学肥料ニュース（2025年6月）

肥料業界の2025年6月動態

* 6月第1週（2~8日）の尿素国際相場は、インドNFL社の尿素国際入札により先週に続き値上げとなった。東半球では中東産大粒尿素のFOB価格が380~385ドル／トン、インドネシア産大粒尿素のFOB価格も385~390ドル／トンに上がった。イラン産尿素も10~20ドル上がって、FOB350ドルを要求し、実際に340~345ドル／トンで取引されている。

西半球ではエチオピアのEABC社が新たに尿素国際入札を行い、26万トン大粒尿素の契約を目指している。北アフリカ産尿素が値上げられ、エジプト産大粒尿素のFOB価格が405~415ドル／トン、アルジェリア産大粒尿素のFOB価格が410ドル／トンに再び400ドルを超えた。ナイジェリアDangote社の尿素販売入札にはFOB393ドル／トンで3万トン大粒尿素を契約した。南米の尿素も値上がり、CFRブラジル390~405ドル／トン、CFRアルゼンチン418~425ドル／トンに上がった。ただし、アメリカでは需要期が過ぎたため、FOB Nola価格が357~385ドル／トンで大幅下がった。

* 6月5日、インド側はロシアのUralkali社との間に2025年塩化カリウム輸入基本契約を締結した。CFR価格349ドル／トン、前日（6月4日）ベラルーシBPC社と締結した基本契約と同じ価格である。基本契約の有効期限は2025年12月末まで、Uralkali社の塩化カリウム供給数量60万トンという内容である。

* EU議会は411票賛成、100票反対でロシアとベラルーシ産化学肥料に特別輸入関税を徴収する法案を通過した。その法案は7月1日から2026年末までにロシアとベラルーシ産化学肥料に対してトン当たりに40~45ユーロ、2027年からトン当たりに80ユーロ、2028年からトン当たり350~430ユーロの特別関税を徴収するという内容である。法案はEUに加盟する各国に批准が必要であるが、すでにすべての加盟国が法案を支持する態度を示している。

EUは2023年にロシアとベラルーシから360万トン化学肥料を輸入して、2024年にその輸入量が440万トンに急増し、金額では約13億ユーロで、EU化学肥料輸入量の約30%を占めるようになった。EUの措置はロシアとベラルーシに圧力を強化するうえ、EU内の化学肥料生産を強化する狙いもある。また、ロシアとベラルーシからの化学肥料輸入量を規制する悪影響を緩和するために、北アフリカ、中央アジア、アメリ

カ、トリニダード・トバゴおよびナイジェリアからの化学肥料輸入にかかる関税を軽減または撤廃することも提案した模様。

* 2025年1月から世界の硫黄相場が急騰した。5月中旬のFOB価格がすでに前回2022年7月の最高値を超えた。最大供給元の中東産硫黄のスポット価格は今年第1四半期だけで62%も上がり、4月のカタール硫黄のFOB価格が275ドル／トンを記録し、3月下旬のCFRインドネシア価格も290ドル／トンとなった。

硫黄は主に硫酸の製造に使い、硫黄1トンから硫酸3トンを作る。2024年世界の硫黄需要量が約7100万トン、その約60%はりん酸肥料などの化学肥料生産に使われている。ほかにニッケルとチタンの精製など多くの硫酸が使われる。硫黄価格の高騰はインドネシアのニッケル産業のほか、モロッコと中国のリン酸肥料の需要増により、需給関係がタイトになったと推測される。

* 2025年に入ってからりん安(DAP、MAP)の国際相場がじわじわ上がってきた。最大の輸入国ブラジルではMAPの5月末CFR価格が725～730ドル／トン、アルゼンチンではCFR765ドル／トンまで高騰した。モロッコのOCP社はCFR790～795ドル／トンでブラジル以外の南米に3万トンMAPを販売し、7月の船である。アルゼンチンのYPF社は国際入札に於いてCFR760ドル／トンで5000トンMAPと2000トン重過石を契約した。

輸出国では、ロシア産DAPとMAPの南米向けCFR価格がそれぞれ750ドル／トンと765ドル／トンを提示した。中国では5月からのりん安輸出再開に伴い、DAPのFOB価格が720～725ドル／トン、粒状11-44MAPのFOB価格も580～590ドル／トン、粉状10-50MAPのFOB価格が670ドル／トンと上昇した。

* 6月12日、中国側はロシアのUralkali社との間に2025年塩化カリウム輸入基本契約を締結した。輸入数量不定、CFR価格346ドル／トンで、2026年3月末まで有効である。この価格は先週インドとの塩化カリウム輸入基本契約より3ドル／トン安い。

* 6月第2週(9～15日)の尿素国際相場は中国尿素輸出状況の確認とインドNFL社の国際入札によりほとんど変動せず、高止まりの状態である。東半球では一部の中国尿素がすでに輸出「法定検査」を受けて、6月下旬に輸出が始まる状態となっているため、CFR東南アジア価格が若干下がった。イランKPI社とShiraz社がそれぞれ行った尿素の販売入札にFOB350ドルで計5.5～6万トンを契約し、前週と同じ価格である。

西半球では、エチオピアEABC社の25万トン尿素の国際入札はインドNFL社とのバッティングを避けるため、締切りと開札を6月17日に延期する。ロシアEurochem

社の Azot 工場が 6 月 9 日にドローンの襲撃を受けて、操業停止となった。CFR EU の尿素は 403~407 ドル／トン、CFR ブラジルの小粒尿素が 390~395 ドル／トン、大粒尿素が 400~405 ドル／トンで安定している。

- * 6 月 12 日に開札されたインド NFL 社の尿素国際入札に 23 社が応札して、応札数量約 250 万トン、最低応札価格 CFR 西海岸 399 ドル／トンで、4 月 8 日開札された前回の尿素国際入札より 14 ドルも高くなっている。
- * 中国税関の速報によれば、2025 年 5 月の中国化学肥料輸出量が 21.2% 増の 314 万トン、その内訳は硫安 136 万トン、尿素 0.24 万トン、DAP1.27 万トン、MAP1.59 万トン、尿素の輸出が解禁されたとはいえ、まだ輸出量に反映されていない。
5 月の中国化学肥料輸入量が 0.9% 減の 111 万トン、その内訳は塩化加里 97 万トン、NPK 化成肥料 13 万トン。
- * ブラジル国家農業機構 (Conab) の発表によれば、ブラジルは 1~4 月の化学肥料輸入量が 13% 増の 1154 万トン、この 5 年間に最多である。2024 年ブラジルの化学肥料輸入量が 4430 万トンに達し、2025 年もその流れを引き継いだ。ダイズとトウモロコシ栽培面積の拡大に伴い、ブラジルの化学肥料輸入量が増加し続いている。現在国内化学肥料消費量に於ける輸入化学肥料のシェアが 85% に達した。ブラジル政府は 2050 年までに輸入化学肥料の依存度を 50% に減らす計画を策定した。
- * イスラエルとイランの紛争により、世界の尿素市場に大きな影響を及ぼしている。イランは尿素生産と輸出大国で、年間 480 万~570 万トン尿素を海外に輸出している。イランの通関データによれば、2024 年にはトルコに 234 万トン、ブラジルに 133 万トン、オマーンに 66.7 万トンを輸出している。なお、オマーン向けの輸出は間違いなく第 3 者に転売される。イスラエルの空爆によりイランの一部尿素工場がすでに生産が停止され、輸出も停滞している。
- * 6 月第 3 週 (16~22 日) の尿素国際相場はイスラエルとイランの紛争およびウクライナからロシアへのドローン攻撃により尿素供給が悪化され、FOB 価格は 1 週間だけで 16~25% も上昇した。東半球では、イラン尿素工場がイスラエルの空爆により、すべて生産が停止され、輸出も停滞している。中国尿素の輸出が進まず、依然厳しく規制されている。そのため、中東産尿素へのオファーが急増し、価格が吊り上げられ、2022 年末以来の高値となり、サウジアラビアの Sabic 社は 6 月 17 日に FOB 450 ドル／トンで 4.5 万トン尿素を契約した。

西半球では、エジプトは天然ガスの不足問題が解決されず、イスラエルからの天然ガスの輸送停止により、すべての原料を失って、多くの尿素工場が稼働停止している。ウクライナからのドローン攻撃によっていくつのロシア尿素工場が一時生産停止に追い込まれた。その後は生産能力を縮小しながらもなんとか稼働を再開したが、FOB バルト海価格が 1 週間だけで 20% 以上も上昇し、440 ドル／トン台に乗せた。北アフリカ産大粒尿素の 9 月出荷分の FOB 価格は 6 月第 2 週までに 410 ドル／トンであったが、第 3 週の週末には 550 ドル／トンまで急騰した。アルジェリア産大粒尿素の 8 月出荷分は FOB536 ドル／トンで 20 万トン以上を契約した。大粒尿素の CFR ブラジル価格が 430 ドル／トン、小粒尿素の FOB アメリカ Nola が 380～430 ドル／トンに急騰した。フランスでは尿素の置場渡し価格が 450～470 ユーロまで上昇し、1 週間足らずで 60～80 ユーロの値上がりとなる。

尿素価格の高騰を受け、硫安の国際相場も急騰した。先週、ブラジルは中国産ブリケット硫安を CFR200 ドル／トンで 20 万～25 万トンを契約し、2 週間前より 30 ドルも高くなって、過去最大の週間上昇率の一つとなった。

- * オーストラリア国家統計局の最新データによれば、1～4 月に 126 万トン尿素を輸入した。また、5 月に 60 万トン、6 月に 51 万トンを輸入する予定で、2025 年上半期の尿素輸入量が 237 万トンになり、2024 年同期の 249 万トンより若干減少する。輸入量減少の理由は昨年末から国内尿素在庫量の増加と国内天候不順で作物栽培面積の減少による消費量の減少である。
- * 6 月 10 日、カナダの塩化加里輸出会社 Canpotex 社は 9 月までの塩化加里販売量がすべて契約済み、余剰量が全くないと発表した。GTT のデータによれば、2025 年 1～4 月のカナダ塩化加里輸出量が 1% 増の 760 万トン、アメリカ経由の輸出量を加えて、輸出量が 2.3% 増の 880 万トンである。1～4 月の主な輸出先はアメリカの 430 万トン（その内の 120 万トンが再輸出）、ブラジルの 160 万トン、インドネシアの 73 万トン、中国の 53.5 万トン、インドの 10.2 万トンであった。
- * GTT の最新データによれば、パーム油の価格高騰に伴い、東南アジアが今年 1～4 月の塩化加里輸入量が大幅に増加した。主要なパームヤシ栽培地のマレーシアは塩化加里輸入量が 29% 増の 61.01 万トン、インドネシアは塩化加里輸入量が 48% 増の 175 万トンに達し、新記録を樹立した。
- * 6 月 25 日、イスラエルの ICL 社は中国とインドとも 2025 年塩化加里輸入基本契約を締結したことを発表した。中国との基本契約では 2025 年 12 月末までに CFR346 ドル

／トンで 75 万トン塩化加里を供給し、オプションとしてさらに 34 万トン塩化加里を供給することができる。インドとの基本契約では 2025 年 12 月末までに CFR349 ドル／トンで 40 万トン塩化加里を供給し、オプションとしてさらに 10 万トン塩化加里を供給することができる。

* イスラエルとイランの紛争で、中東はアンモニアの主要輸出元として供給不安の懸念が国際アンモニア価格を大幅に押し上げた。イランはイスラエルからの爆撃を受け、すべてのアンモニア工場を稼働停止となった。なお、イラン産のアンモニアはインドとトルコにのみ輸出されるが、2025 年 1～6 月の輸出量は 41 万 5000 トンで、2024 年の同時期と比べて約 30% 増加している。なお、2024 年の輸出量は 82.5 万トン、2023 年の輸出量が 58.3 万トンと逐年増加している。サウジアラビアの Maaden 社は 3 カ所あるアンモニア工場のうち 1 カ所のメンテナンスが長期化したことにより、供給制約が生じている。また、ホルムズ海峡を通過するタンカーの保険料が上昇して、アンモニアの CFR 価格を押し上げた。

北東アジアでは全域のアンモニア主要産業は季節的な需要がかなり抑制されており、スポット取引は今年これまでのところ限られているため、インドネシアのアンモニアと尿素工場のターンアラウンドは市場に大きな影響を及ぼしていないようである。

西半球ではアルジェリアとエジプトの生産抑制により、アンモニアの FOB 価格と CFR 価格が大幅に上昇した。また、中米トリニダード・トバゴでの差し迫った天然ガス不足と、アメリカ湾岸での生産能力の制約が噂される中で合意された 7 月のアメリカ基準価格は CFR417 ドル／トンで、6 月価格より 25 ドル上昇した。

* 6 月 17～19 日中国西安で開催された「2025 年中国硝酸硝安産業部会」に於いて、中国窒素肥料工業協会は中国硝酸と関連する産業のデータを公表した。2024 年末現在中国の硝酸と硝酸塩メーカー 74 社、硝酸生産能力 2196 万トン、実生産量 1547.7 万トン、硝安生産能力 695 万トン、実生産量 641.1 万トン、硝酸アンモニウムカルシウム生産量 279 万トン、硝酸加里生産量 95 万トン、硝酸カルシウム生産量 70 万トン、硝酸マグネシウム生産量 35 万トン。

* 中国消息筋からの情報によれば、2025 年中国産りん安 (DAP と MAP) の輸出割当数量が 2 回に分けて各メーカーに配分する。1 期目の 5～9 月輸出割当数量はすでに配分済み、2 期目の 10～翌 4 月輸出割当数量は 1 期目の状況を見て決定し、9 月に配分する。なお、各りん安メーカーは中国政府が決めた最低生産計画を完成し、国の化学肥料商業備蓄任務を達成してから、余った生産量を元に輸出割当数量を決定するという。

- * 6月24日、インドRCF社は新の尿素国際入札を発表した。7月7日締切りと開札、予定購買数量が東海岸向け100万トンと西海岸向け100万トンの計200万トン。8月22日まで船積みという条件である。これは今年インド4回目の尿素国際入札である。
- * 6月第4週(23~29日)の尿素国際相場はアメリカによるイラン核施設への爆撃およびインドRCF社の新の尿素国際入札により週の前半に価格が大幅に上昇していたが、週の後半にイランとイスラエルの停戦およびウランがアメリカに対する弱腰な対応により急速に下落した。ただし、イスラエルとイランが衝突する前に比べて依然高い価格を維持している。
東半球では、尿素価格が大きく変動して、中東産大粒尿素のFOB価格が435~490ドル/トンで変動し、オマーン産尿素が週の前半にFOB価格が490~525ドル/トンの高値で数件の契約を結んだ。インドネシア産大粒尿素の販売入札ではFOB452~470ドル/トンで落札された。
西半球ではエジプトはイスラエルからの天然ガス供給停止により尿素工場がすべて稼働停止となり、アルジェリアは週前半にFOB530ドル/トンを要求したが、週後半に490ドルに値下げした。
- * 5月28日インドNFL社が発表した尿素国際入札は6月12日締切りと開札した結果、23社が応札して、応札数量249.93万トン、最低応札価格がCFR西海岸399ドル/トン。しかし、契約最終日の6月23日までに契約できたのはCFR399ドル/トンの22.9万トンだけで、目標の150万トンに遠く及ばない。

大手各社の営業業績

- * チリSQM社の2025年第1四半期の業績を発表した。業務の重点をリチウム事業に移したため、塩化加里販売量が38%減の10.08万トン、硝酸加里販売量が1%減の11.76万トン、加里部門の売上高も33%減の4250万ドルである。ただし、リチウム事業の健闘で、全体の売上高が4.4%減の10億3660万ドル、粗利が17.3%減の3億470万ドル、純利益が1億3750万ドル。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 6月10日、中国雲南省の解化社は新しい窒素肥料工場の起工式を行った。解化社は旧工場の休転に代わり、雲南省開遠市に年間生産能力アンモニア50万トン、尿素50万トン、硝酸54万トン、硝安55万トン、化成肥料100万トンの新工場を建設し、2028年完成と稼働する計画である。

- * アルジェリア国営石油会社 (Sonatrach) は Tébessa 県 El Hadba 地区のりん鉱山開発と Oued Keberit 地区のリン酸肥料工場統合プロジェクトのフロントエンドエンジニアリング設計 (FEED) をイタリアの Saipem 社に依頼した。El Hadba りん鉱山プロジェクトは年間 1,000 万トンのリン鉱石を採掘し、Oued Keberit で 600 万トンのリン酸肥料を生産計画である。
- * トルクメニスタンの大統領は国営化学会社 Turkmenhimiya が同国第 2 の都市 Turkmenabat に粒状過りん酸石灰工場および硫安工場を建設する計画を許可した。当該粒状過りん酸石灰工場の年間生産能力 35 万トン、硫安工場の年間生産能力 10 万トン、投資額 7 億 8400 万ドル、2029 年完成・稼働する予定である。建設担当は韓国の大宇エンジニアリング社、プロセス設計と技術担当はスイスの Casale 社である。
- * 6 月 26 日、中国湖北宜化グループは子会社湖北宜化肥業社の 66 万トン DAP 生産ラインと子会社湖北宜化磷化工社の 20 万トン精製りん酸、65 万トンりん安生産ラインの一部が完成し、稼働し始めたと発表した。

その他

- * オーストラリアの NH3 Clean Energy 社, Pilbara Ports 社と Oceania Marine Energy 社の 3 社はオーストラリアの Dampier 港で低炭素アンモニア燃料補給事業の新会社を設立し、Pilbara・アジア海上回廊の脱炭素化を支援する協定に署名した。役割分担は、NH3 Clean Energy 社が計画中の WAH2 プロジェクトからブルーアンモニアを供給し、Pilbara Ports 社が Dampier 港の船舶入出港管理、Oceania Marine Energy 社が船舶の運航を行うことである。
この合意は、国際海事機関 (IMO) が最近発表した 2027 年から総トン数 5,000 トンを超える船舶に対する二酸化炭素の義務的な排出制限と世界的な価格設定メカニズムを定めるネットゼロ枠組みを受けたもので、2030 年までに事業を開始することを目指している。
- * 6 月 13 日、スウェーデンの NitroCapt 社は高電圧で発生したプラズマ放電による空気中の窒素を硝酸塩に変換する技術で、スウェーデンの Curt Bergfors 財団から Food Planetw 賞を受賞した。Food Planetw 賞の審査委員長は「NitroCapt 社の革新的なプラズマ技術により、空気中の窒素を分解し、グリーン電力のみで窒素肥料を生産することが可能になった。この技術は窒素肥料の合成に使うエネルギー使用量を 10 分の 1 に削減し、現地生産が可能で、化石燃料の使用を完全に回避しながら、土壌の健全性を向

上させ、世界中の農家が持続可能な形で使用できる硝酸塩肥料を生産することは Food Planetw 賞を受賞する理由である。」と述べた。

- * アメリカのベンチャー企業 Pivot Bio 社はバイオ技術で作った窒素固定微生物の 2024 年現地実験結果報告書を発表した。2024 年アメリカ 20 州の 97 郡にある 172 ヶ所の畑で窒素固定微生物 PROVEN 40 を使用した実験では、同等の収量を維持する場合は 1 エーカー（約 4047m²）あたり 37 ポンド（約 16.8kg）以上の窒素を削減し、従来の化学肥料に比べて窒素の利用効率が 16% も向上することが確認された。
- * イギリスの Glasgow 大学化学部の Mark Symes 教授らの研究グループは超音波と水、空気だけを使って、硝酸塩を生成する方法を発見した。科学誌「Cell Reports Physical Science」に発表された「Towards decentralised nitrogen fixation using pulsed ultrasound」（パルス超音波を用いた分散型窒素固定について）というタイトルの論文には脱イオン水に空気を数分間通気させ、窒素と酸素を溶解させてから集束した超音波を用いて水中に微細な泡を発生させ、振動させる。水中の泡が振動すると、熱を帯び、超音波圧力によって繰り返すと、泡内部のガスは太陽の表面温度と同程度の 5000°C に達することがある。その状態で窒素分子が分解され、酸素と融合して最終的に硝酸分子が生成されると記述している。

実験室の試験では、8 分間で 20ml の水中に約 40 マイクロモル濃度の硝酸塩を生成することが確認された。まだ比較的低い濃度ではあるが、研究チームは今後の試験でプロセスを最適化し、農業的に有用な硝酸塩を生産できるようにスケールアップできる可能性があると述べている。なお、当該研究は、イギリスの EPSRC（工学・物理科学研究会議）と王立協会から資金提供を受けている。